

西中学校区 保幼小中連携通信

グローイングアッププラン 1年目 [点を深めるブロック連携]

第2号 平成29年7月11日 発行責任者 上垣内 匡志/吉岡 吾郎
(西中学校区連携コーディネーター)

～西中校区合同研修会の振り返り～

6月6日の合同研修会に引き続き、多くの先生方にご出席いただきありがとうございました。春日小学校では外国語活動、畑田小学校では道徳の研究授業、研究会が行われ、両校ともに有意義な研修会になったと多くの方からの感想をいただきうれしく思います。

春日小学校では、5年生が外国語活動の授業を4クラスで公開しました。同じ「めあて」の授業に対し、それぞれの担任が導入とアクティビティを工夫しながら取り組みました。講演会では、関西大学初等部の梅本龍多先生を講師にお招きして、「外国語でコミュニケーション力を高めよう」をテーマに、ご講演いただきました。英語の教科化に向け、今やっていることを続けていけばいいことや、ゲームなど楽しい活動をたくさん取り入れていくことが大切である事を教わりました。また、具体的なゲームの体験を通して、思わずやってみたくなるような「なにわイングリッシュ」を学びました。

畑田小学校では、3年1組で道徳科の授業が行われました。「さかあがり」という教材を使用して、3人の登場人物から“親切・思いやり”について考えました。今回は、中心人物の心の変容から“親切・思いやり”について考えていくことをせず、3人の立場から考えていくというスタイルで授業をしていただきました。そして、一人一人が考えたことを付箋に書き、班で交流しました。道徳科の授業のまた違った形での



授業提案ができたと感じています。講演会では、茨木市教育委員会 笹川指導主事をお招きして、「道徳科の授業づくり」をテーマにご講演いただきました。授業のふりかえり、グローイングアッププランでめざす子ども像と道徳教育の関連性、具体的な指導方法・評価方法など、今先生方が疑問に感じておられることがいっぱいあったお話をいただきました。特に、子どもたちは、“親切・思いやり”が大事なのはわかっていて、それを行動や言葉で伝えられない“自分”について考えることが大事であるというお話が印象的でした。1時間の授業では難しいかもしれませんが、年間を通して“自分自身”と向き合う時間を確保することが大切ではないでしょうか。

今回の研究授業と講演会で、道徳科の授業に対して、積極的に取り組もうと感じていただいた先生方も多くおられたと思います。先生方のいいきっかけになっていれば幸いです。

今回は、7月21日（金）西中校区保幼小中合同研修会です。次回も先生方の多数ご参加よろしくお願い致します。

本当にたくさんのご参加ありがとうございました。

交流会より

《一組》

・小学校のよさは子どもが恥ずかしがらないこと。それを教師が引き出せていた。・中学校は、「書く」「読む」もあるので難しい。中一は楽しくできている。・中学校では英語嫌いが増える傾向がある。・小さい成功体験が将来のコミュニケーション力につながる。・普段から人とのつながりを大切にしている。・支援が必要な児童への配慮もできていた。・クラスの雰囲気づくりが大切。担任の声のトーンで児童のテンションをコントロール。・流れや切りかえがはっきりしていてテンポがいい。



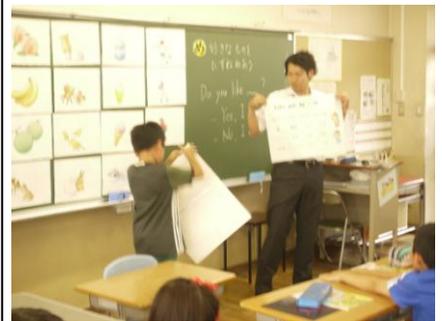
《二組》

・子どもと先生の関係がよかった。・子ども達が、自然に声かけあい、みんなゲームに参加できていた。・ビンゴに興味がいき、「Do you like」がぬけてしまうこともなかった。・授業のあとで口ずさんでいたり、「もう終わったん？」と言う子がいる等、子どもが楽しんでた。・コミュニケーションが苦手な子も参加しやすい雰囲気だった。・いろいろな活動やゲームが入っていて楽しい授業だった。・ハローソング、じゃんけん、スピードアップの工夫があった。



《三組》

・楽しみながら学ぶ活動が工夫されていた。中学校は書く学習が増えるからギャップが心配である。・パワーポイントがわかりやすかった。カードがたくさんあってよかった。・クラスの雰囲気もよく子どもがよく発言し、いきいきと活動していた。・コミュニケーション力を高めるのが、外国語活動であるが、自分に質問してほしいときや、スイミングを表す、ジェスチャーが生まれていて、これもコミュニケーション力の高まりの一つであると感じた。・クラスの雰囲気がよかった。・あきずに「Do you like」としっかり言えていた。



《四組》

・キャサリンなどの設定からすごく考えている。・ほめる言葉がたくさん出てきてよかった。・テンポがよく、無駄がなかった。・興味が持てる場面設定があれば、なお良かった。・子どもも発音を意識していた。・全員が会話できていた。・大げさな声かけが、子どもの励みにつながっていた。・話す機会、発言の機会が多く、主体的に学ぶことができていた。・英語の世界に引き込む仕掛けがたくさんあった。



アンケートより

春日小

- ・同じ内容をやっているようで、それぞれのクラス担任の工夫が見られて面白かった。
- ・各クラス違う設定で授業を進めていたので、様々な設定を知ることができてよかった。
- ・コミュニケーションツールとして、英語をどれだけ児童が使って授業の活動をするのか、どのクラスもしっかり意識されていたと思った。ゲームやアクティビティの中で、英語の世界に引き込むこと、先生の一生懸命さ、深い教材研究が外国語に慣れ親しむためには大切だと感じました。
- ・児童たちが終始笑顔で積極的に授業に参加していて、普段から担任の先生方が授業計画などをしっかりされていると思いました。
- ・様々な校種、教科の先生方と話すことができ授業のヒントにしたいと思います。
- ・短い時間でしたが他校種の先生と交流しながら意見交換することができよかった。
- ・保幼小中高の連携が大切だと実感しました。
- ・様々な学年や小学校の先生方の意見、感想を聞くことができとても勉強になりました。
- ・実践的な内容で、とても分かりやすかった。難しいパワーポイントを使った話よりすぐにも使えそうなゲームの紹介などで勉強になりました。
- ・ゲームやアクティビティがとても参考になりました。今日の授業に通じる物がありますが、なにわイングリッシュ「楽しい英語」をめざしてがんばろうと思いました。

畑田小

- ・自分の立場に近い人に寄り添い、登場人物の気持ちを考え、多面的な考え方を共有できるスタイルが良かったです。
- ・それぞれの立場からどのようなところがカッコいいかを考えることで、自分がどの立場の人であっても、カッコよさを見つけることができると感じました。また、付箋を使ってグループ活動することは、初めて見ました。自分の意見を友だちに発表する時に、発表したことが目に見えてわかるので、とてもいいと感じました。
- ・今まで見たことのない道徳の授業で、「こんな授業の仕方もあるのか」と見ていて、とても勉強になりました。
- ・「道徳は子どもたちの課題から子どもたちに寄り添って」という部分も忘れずに、今までの学校で大切にしてきた価値観・集団づくりを基礎に道徳の時間をつくってあげればいと理解しました。
- ・道徳と集団づくりがつながっていることは毎日が道徳なので、それをしっかりしていく必要があると思います。そうしないと、道徳の時間で授業ができないと感じました。
- ・もうすぐ道徳科が教科化されることに向けて、道徳ってなんだろうという基礎を元にお話が聞けて良かったです。今自校では、各学年でどのような教材を使用して、どのようなペースで授業を行っているのか、整理しているところです。教科化に向けて、まずはできること、授業を全体計画に沿って、授業を行っていきたいです。
- ・小中連携を進めていく上では、できれば高学年の授業を見たかった。班での交流でどのように行われていたのかが分からず、少し残念でした。